
2024 年度（令和 6 年度）採用

日本学術振興会特別研究員 申請の手引き



**中央大学 学事部研究助成課
研 究 支 援 室**

目 次

1. 基本事項（2024 年度採用の場合）	1
2. 申請から採用までの流れ	5
3. 審査のしくみ	8
4. 申請書について	11
5. チェックリスト	19
6. その他	20

1 基本事項(2024 年度採用の場合)

I. 特別研究員事業とは

優れた若手研究者に自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度です。

採用されると、研究奨励金（月の生活費）、特別研究員奨励費（研究費）を受給することができます。

※ 2024 年度採用より、特別研究員奨励費の申請も同時に行われるようになりました！この後、追加申請することはできないので、必ず申請をご検討ください。

対象分野：人文学、社会科学および自然科学の全分野

II. 採用区分と申請資格

【特別研究員 DC 1】大学院博士課程在学者

(採用予定数：700 名程度)

年齢	制限なし	採用期間	3 年間	研究奨励金	20 万円／月
特別研究員奨励費	A 区分	80 万円以下／年	B 区分	80 万円超 150 万円以下／年	
申請資格	2024年度の4月1日現在、我が国の大学院博士課程に在学し、次のいずれかに該当する者（外国人も含む） ① 区分制の博士課程後期第1年次相当（在学月数12ヶ月未満）に在学する者 ② 一貫制の博士課程第3年次相当（在学月数24ヶ月以上36ヶ月未満）に在学する者 ③ 後期3年の課程のみの博士課程第1年次相当（在学月数12ヶ月未満）に在学する者 ④ 医学、歯学、薬学又は獣医学系の4年制の博士課程第2年次相当（在学月数12ヶ月以上24ヶ月未満）に在学する者 ※①～③において、採用年度の4月に博士課程後期等に進学する予定の者を含む。				

1 基本事項(2024 年度採用の場合)

【特別研究員 DC2】大学院博士課程在学者

(採用予定数 : 1,100 名程度)

年齢	制限なし	採用期間	2 年間	研究奨励金	20 万円/月
特別研究員 奨励費	A 区分	80 万円以下/年	B 区分	80 万円超 150 万円以下/年	
申請資格	2024年度の4月1日現在、我が国の大学院博士課程に在学し、次のいずれかに該当する者（外国人も含む） ①区分制の 博士課程後期第2年次相当 （在学月数12ヶ月以上36ヶ月未満）に在学する者 ②一貫制の博士課程第4年次相当（在学月数36ヶ月以上60ヶ月未満）に在学する者 ③後期3年の課程のみの博士課程第2年次相当（在学月数12ヶ月以上36ヶ月未満）に在学する者 ④医学、歯学、薬学又は獣医学系の4年制の博士課程第3年次相当（在学月数24ヶ月以上48ヶ月未満）に在学する者				

【特別研究員 PD】博士の学位取得者

(採用予定数 : 350 名程度)

年齢	制限なし	採用期間	3 年間	研究奨励金	36.2 万円/月
特別研究員奨励費	A 区分	100 万円以下/年	B 区分	100 万円超 150 万円以下/年	
学位	2024 年度の4月1日現在、 博士の学位を取得後5年未満の者。 （申請時においては、見込みでも良い）				
受入研究機関	受入研究機関は大学院在学当時の所属研究機関 （修士課程として取り扱われる大学院博士課程前期は含まない） 以外の大学等研究機関 （以下「出身研究機関」という。） を選定すること （以下「研究機関移動」という。） 注：特別研究員等審査会の判定により出身研究機関に関する特例措置を例外的に認めることがあるので、特例措置を希望する者は「特例措置希望理由書」（様式別紙）を添付すること。 注：出身研究機関は、博士の学位を取得する予定または博士の学位を取得した研究機関。 ※ H P に申請資格のガイドライン公開中 https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sinsa.html				
受入研究者	大学院博士課程在学当時の学籍上の研究指導者以外を選定すること				
国籍	日本国籍を持つ者、または日本に永住を許可されている外国人				

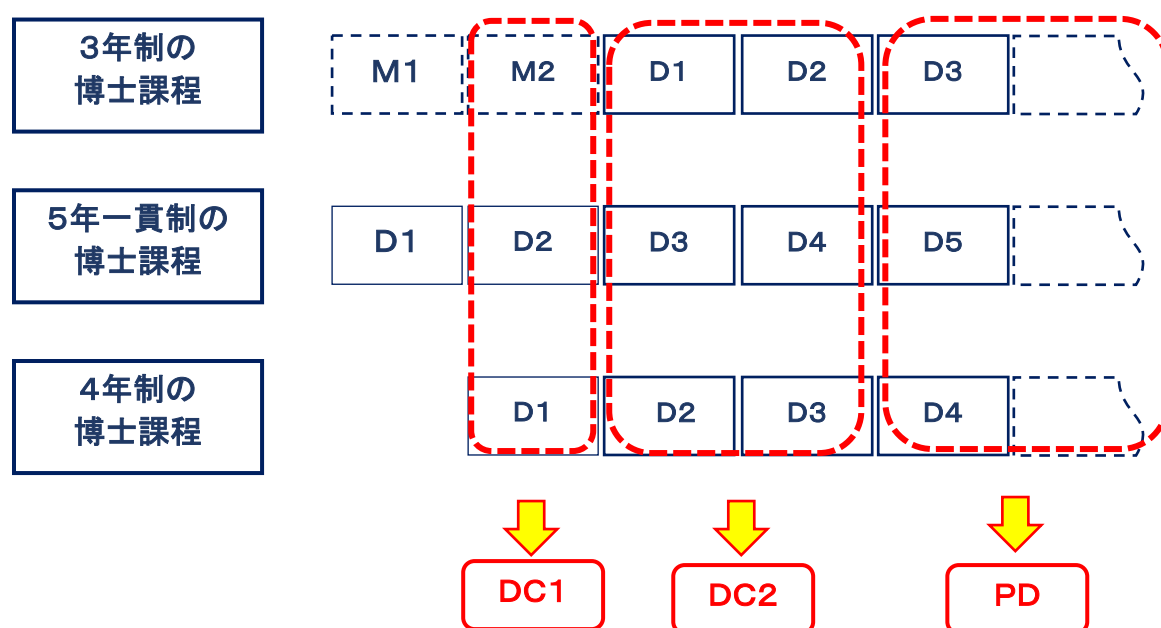
1 基本事項(2024 年度採用の場合)

【特別研究員 RPD】 出産育児による研究中断者の復帰支縁

(採用予定数:75 名程度)

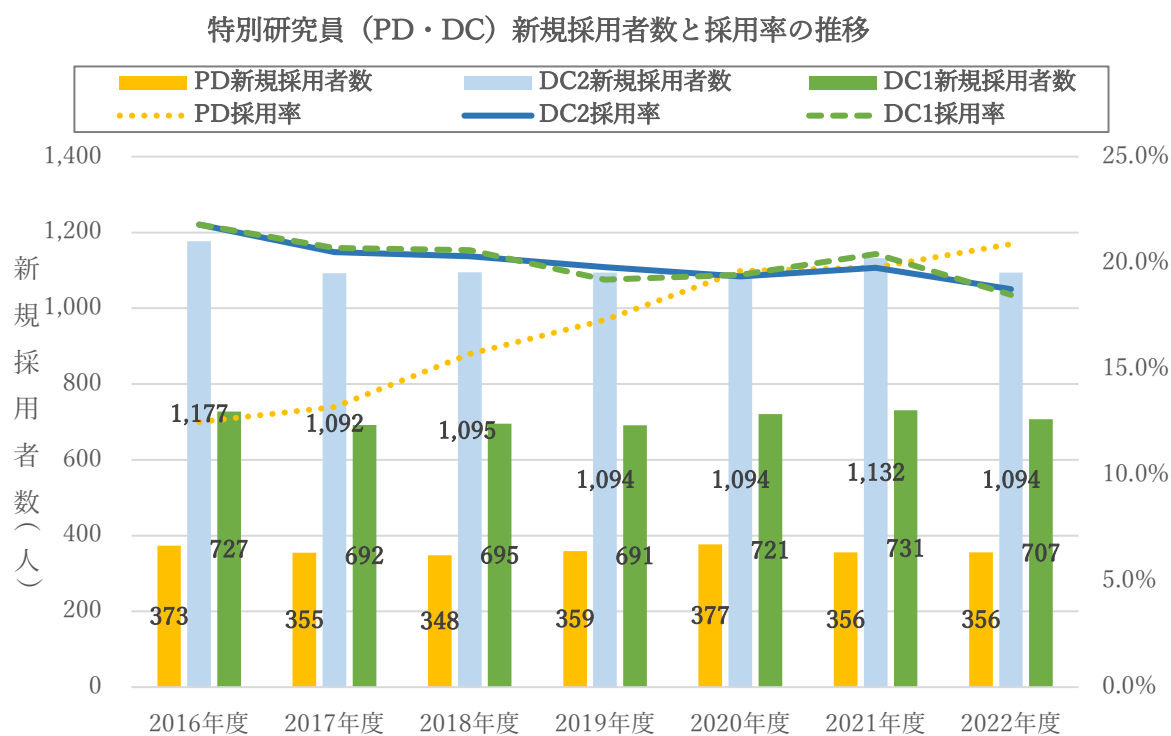
年齢	制限なし	採用期間	3 年間	研究奨励金	36.2 万円／月
特別研究員奨励費	A 区分	100 万円以下／年	B 区分	100 万円超 150 万円以下／年	
学位	2024 年度の 4 月 1 日現在、博士の学位を取得している者。 (申請時においては、見込みでも良い)				
受入研究機関	受入研究機関は、大学院在学当時の所属研究機関以外の大学等研究機関を選定することを 推奨				
研究中断	次のいずれかに該当する者 ① 2023年4月1日時点で未就学児を養育しており、その子の出産育児のため、2016年10月1日から2023年3月31日の間に、3ヶ月以上研究活動を中断した者 ② 出産または疾病や障害のある子を養育したため、2018年4月1日から2023年3月31日の間に、3ヶ月以上研究活動を中断した者				
国籍	日本国籍を持つ者、または日本に永住を許可されている外国人				

申請時の在学年次と申請資格 (イメージ)



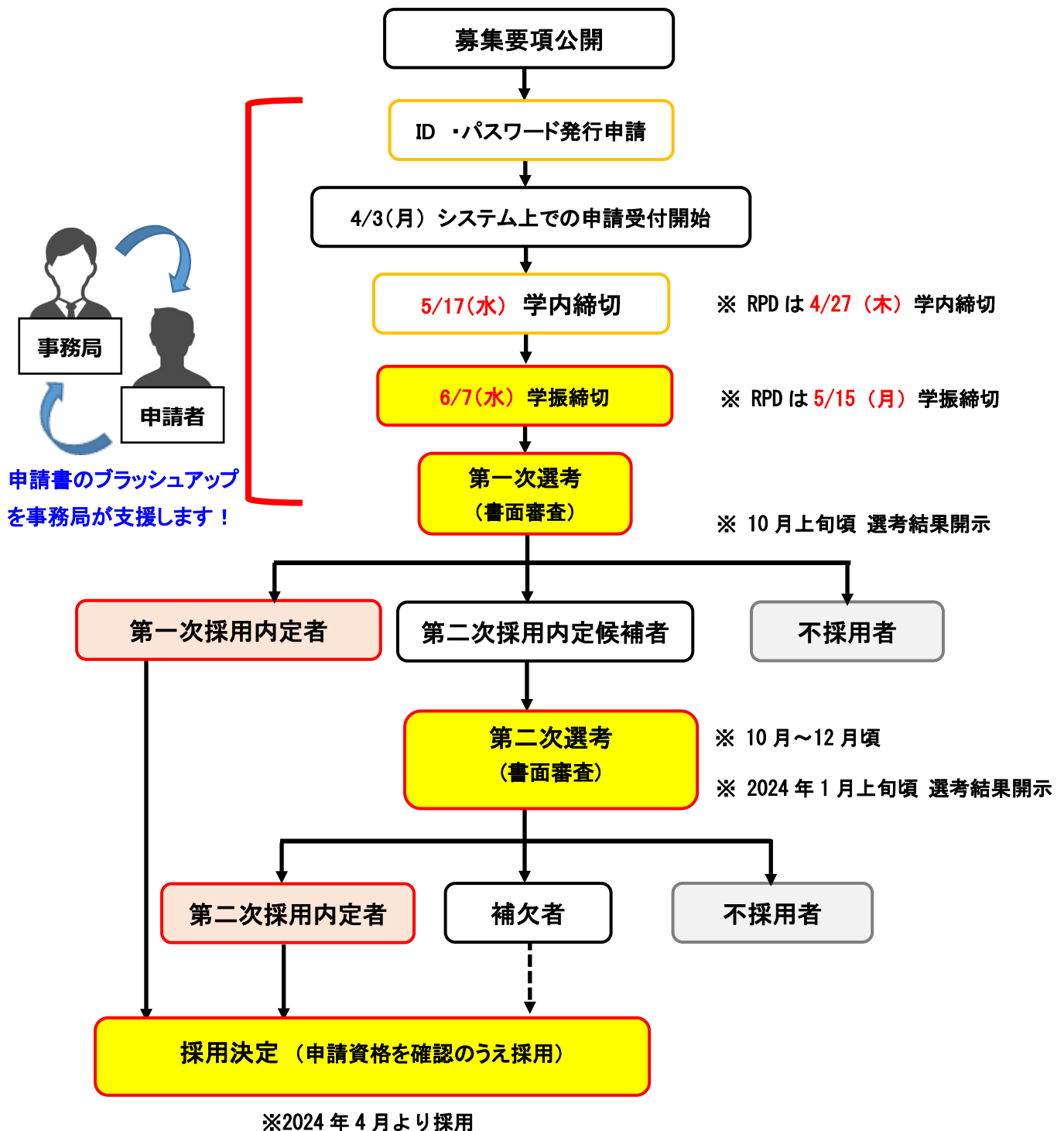
1 基本事項(2024 年度採用の場合)

新規採用者数と採用人数の推移



※最新の採用状況については学振HP参照：<https://www.jsps.go.jp/j->

2.申請から採用までの流れ



2.申請から採用までの流れ

1. 電子申請用 ID・パスワード発行申請書をメール添付で提出

※提出先

- ・ 学事部研究助成課（多摩キャンパス 1 号館 4 階）
→ 文系大学院(法学研究科を除く)・ P D 申請希望の方
042kaken-grp@g.chuo-u.ac.jp
Tel 042-674-2159
- ・ 研究支援室（後楽園キャンパス 3 号館 10 階）
→ 理系大学院・ 法学研究科・ 国際情報研究科・ 法務研究科・ 戦略経営研究科・
P D 申請希望の方
kaken-shinsei-grp@g.chuo-u.ac.jp
Tel 03-3817-7423

メールでのご提出を確認後、ID・パスワードをメールの返信にて通知します

申請書：<https://www.chuo-u.ac.jp/research/support/news/2023/02/64847/>

2. 電子申請システムにログインし申請書を作成

(システムは4月3日より使用可能)

内容ファイル（Word）は下記より入手可能なので、すぐに着手可能。

学振 HP : https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sin.html

- ①申請者情報（電子申請システムで入力） ②内容ファイル（Word ファイル）

令和6年度採用分 特別研究員－DC 申請書				第 〇 頁
(申請者情報)	①申請資格	DC	受付番号	
審査区分	②審査審査区分			
	③小区区分名			
	④小区区分コード	⑤専門分野		
⑥研究課題名				
1. 申請者情報等				(申請機関コード:)
⑦氏 名	(フリガナ) 姓 名			
⑧学 歴 (学部・修士)				
1. 年 月 大学 学部 学科卒 2. 年 月 大学大学院修士課程入学 (研究科 専攻)				

(DC 申請内容ファイル) ー

2. **【研究計画書】** 調査報告の目も無いものなどとして、おかりやすく記入してください。なお、申請書は「真に内容をください。様式の変更・追加は不要。」

(1) **研究の位置づけ**。

「研究研究員として取り組む研究の位置づけについて、論点分野の状況や課題等の背景、並びに本研究計画の趣意に至った経緯もあわせて記入してください。」

2.申請から採用までの流れ

3. システムから事務局に提出（送信）

指導教員には③評価書を作成していただく

① ②③をシステム上にアップロードして事務局に提出（送信）する



③評価書（電子申請システムで入力）

日本学術振興会特別研究員申請者に関する評価書	
評価書作成者	氏 名
	所属機関名
	部 局 名
	職 名
申請者との関係	
申請者の(1)「研究者としての強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、具体的に記入してください。	
(1)研究者としての強み	
見本	
(2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素	

4. 事務局にて形式・内容チェック

事務局：不備や修正箇所があれば、申請者へ差し戻し

申請者：申請書を修正の上、再送信

※このやり取りを数回繰り返して、ブラッシュアップしていく



5. 事務局より学振へ提出

本学事務局でとりまとめて提出



3. 審査のしくみ

1. 審査方法

申請者が選択した審査区分に基づいて、審査委員（6名）が二段階にわたり書面による審査を実施する「二段階の書面審査」方式により選考が行われます。



第一次選考(書面審査)	1件の申請について申請者の書面審査区分に応じた専門委員6人による書面審査
第一次選考 結果通知	成績上位者は第一次選考で採用内定
第二次選考(書面審査)	第二次採用内定候補者を対象に、同一の専門委員が第二次選考を実施
第二次選考 結果通知	第二次採用内定候補者の結果通知

2. 主な審査方針 ※申請書は以下の方針を踏まえて作成しましょう。

(PD・DC 共通)

- I. 自身の研究課題設定に至る背景が示されており、かつその着想が優れていること。
また、研究の方法にオリジナリティがあり、自身の研究課題の今後の展望が示されていること。
- II. 学術の将来を担う優れた研究者となることが十分期待できること。

(PDのみ)

- III. 博士課程での研究の単なる継続ではなく、新たな研究環境に身を置いて自らの研究者としての能力を一層伸ばす意欲が見られること。
- IV. やむを得ない事由がある場合を除き、大学院博士課程在学当時（修士課程として取り扱われる大学院博士課程前期は含まない）の所属大学等研究機関（出身研究機関）を受入研究機関に選定する者、及び大学院博士課程在学当時の学籍上の研究指導者を受入研究者に選定する者は**採用しない**。

3. 書面審査の評点

- ① 研究計画の着想およびオリジナリティ
- ② 研究者としての資質
- ③ 総合評価

①、②の項目評価は5段階の絶対評価。

総合評価は①、②の項目評価をもとに総合的に判断（相対評価）。

評点 5（採用を強く推奨する）：10%
 評点 4（採用を推奨する）：20%
 評点 3（採用してもよい）：40%
 評点 2（採用に躊躇する）：20%
 評点 1（採用を推奨しない）：10%

6人の専門委員が
個別に審査

3.審査のしくみ

審査区分を選ぶ

審査は、申請者が申請時に選択した審査区分（小区分、書面審査区分、書面合議審査区分で構成）に基づいて行われます。

◆審査区分表（学振ホームページ）

https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sinsa-set.html

審査区分表（総表）

書面合議・面接審査区分：人文学		書面合議・面接審査区分：社会科学	
書面審査区分11：思想、芸術およびその関連分野		書面審査区分21：法学およびその関連分野	
小区分		小区分	
01010	哲学および倫理学関連	05010	基礎法学関連
01020	中国哲学、印度哲学および仏教学関連	05020	公法学関連
01030	宗教学関連	05030	国際法学関連
01040	思想史関連	05040	社会法学関連
01050	美学および芸術論関連	05050	刑事法学関連
01060	美術史関連	05060	民事法学関連
01070	芸術実践論関連	05070	新領域法学関連
01080	科学社会学および科学技術史関連	書面審査区分22：政治学およびその関連分野	
90010	デザイン学関連	小区分	
書面審査区分12：文学、言語学およびその関連分野		06010	政治学関連
小区分		06020	国際関係論関連
02010	日本文学関連	80010	地域研究関連
02020	中国文学関連	80030	ジェンダー関連
02030	英文学および英語圏文学関連	書面審査区分23：経済学、経営学およびその関連分野	
02040	ヨーロッパ文学関連	小区分	
02050	文学一般関連	07010	理論経済学関連
02060	言語学関連	07020	経済学説および経済思想関連
02070	日本語学関連	07030	経済統計関連
02080	英語学関連	07040	経済政策関連
02090	日本語教育関連	07050	公共経済および労働経済関連
02100	外国語教育関連	07060	金融およびファイナンス関連
90020	図書館情報学および人文社会科学情報学関連	07070	経済史関連
書面審査区分13：歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野		07080	経営学関連
小区分		書面審査区分24：社会学およびその関連分野	
03010	史学一般関連	小区分	
03020	日本史関連	08010	社会学一般関連
03030	アジア史およびアフリカ史関連	08020	社会福祉学関連
03040	ヨーロッパ史およびアメリカ史関連	08030	家政学および生活科学関連
03050	考古学関連	80020	観光学関連
03060	文化財科学関連	80030	ジェンダー関連
03070	博物館学関連	書面審査区分25：教育学およびその関連分野	
書面審査区分14：地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野		小区分	
小区分		09010	教育学関連
04010	地理学関連	09020	教育社会学関連
04020	人文地理学関連	09030	子ども学および保育学関連
04030	文化人類学および民俗学関連	09040	教科教育学および初等中等教育学関連
80010	地域研究関連	09050	高等教育学関連
80020	観光学関連	09060	特別支援教育関連
80030	ジェンダー関連	09070	教育工学関連

同じ小区分だが、
書面審査区分が異なる
＝審査員の専門分野が異なってくる

3.審査のしくみ

4. 書面審査セット

審査は申請者の書面審査区分ごとに行われますが、適切な相対評価ができるように、**関連する審査グループを組み合わせることでグループ化したものが「書面審査セット」**です。このグループごとに6人の専門委員（審査員）を割り当てて審査が行われます。

6人の専門委員は専門分野のバランスをとることが明記されており、**異なる専門分野からの評価を受けることが確実なので、どのような分野とセットで審査されるかを意識して専門外の人にも理解されやすい申請書となるように工夫しましょう。**

◆書面審査セット 確認頁（学振ホームページ）

https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sinsa-set.html

令和6年度(2024年度)採用分 特別研究員-DC1 書面審査セット

審査区分		書面審査セット
社会科学	21 法学およびその関連分野	
	05010 基礎法学関連	
	05020 公法学関連	
	05030 国際法学関連	
	05040 社会法学関連	
	05050 刑事法学関連	
	05060 民事法学関連	
	05070 新領域法学関連	
	22 政治学およびその関連分野	
	06010 政治学関連	
	06020 国際関係論関連	
	80010 地域研究関連	社会科学2
	80030 ジェンダー関連	
	23 経済学、経営学およびその関連分野	
	07010 理論経済学関連	
	07020 経済学説および経済思想関連	
	07030 経済統計関連	
	07040 経済政策関連	
	07050 公共経済および労働経済関連	社会科学3
	07060 金融およびファイナンス関連	
	07070 経済史関連	
	07080 経営学関連	
	07090 商学関連	
	07100 会計学関連	
	80020 観光学関連	
	24 社会学およびその関連分野	

例えば、小区分「経済政策関連」で申請する場合、書面セットは「社会学3」となり、経営学関連、会計学関連、商学関連等と同じ審査を受ける。

社会科学



審査員

短い時間で数十件の申請書を読み、評価を行う。

自身の専門分野から遠い分野の申請書进行评估することもある。



申請者

わかりやすい内容（専門用語の説明）、簡潔で具体的な文章、読みたいと思わせるレイアウトの工夫。

4.申請書について

(申請書情報)

令和6年度採用分 特別研究員－DC 申請書

第 版

審査区分	①申請資格	DC	受付番号	
	②書面審査区分	1～2頁はWEB入力です。 もれなく入力をしてください		
	③小区分名			
	④小区分コード		⑤専門分野	7字以内
⑥研究課題名	和文で40字以内。研究の概要がわかるようなキーワードを含めて。 専門すぎる用語は使用しない！！			

〇〇大学

1. 申請者情報等

(申請機関コード：)

⑦氏 名	(フリガナ) 登録名	JIS第1、第2水準の文字を使用
------	---------------	------------------

⑧学 歴 (学部・修士)	1. 年 月 大学 学部 学科卒
	2. 年 月 大学大学院修士課程入学
⑨博士の状況	学部・修士課程(博士前期課程を含む)に係る学歴を1行55文字以内のテキストで 入力し、不要な文字は消去してください。現在、修士課程に在学中の者は、入学年月 日のみ入力。
	1. 入学年月：(西暦) 年 月 編・転・再入学
	2. 編・転・再入学時の在学期間換算： 年 ヶ月
	3. 大学院名：
	4. 研究科名：
	5. 専攻名：
	6. 課程種別：
	7. 休学期間合計： 年 ヶ月
⑩研究・職歴 等	1. 年 月 ～ 年 月
	2.
⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等別紙： 有	

「有・無」を選択

4.申請書について

⑪博士の特記事項の有無				
	(博士の特記事項)			
⑫現在の研究指導者	(フリガナ)氏名		職名	教授・准教授・専任講師など
		研究者番号		
	所属機関	〇〇大学		
	部局	「一覧」ボタンをクリックして「部局コード表」を参照のうえ入力。該当するものがない場合は「9999」を選択して、テキスト入力		
	連絡先	評価書作成依頼メールの送信先になるので、正確に入力		
⑬採用後の受入研究者	(フリガナ)氏名		職名	教授・准教授・専任講師など
		研究者番号		
	所属機関	中央大学		
	部局	「一覧」ボタンをクリックして「部局コード表」を参照のうえ入力。該当するものがない場合は「9999」を選択して、テキスト入力		
⑭採用後の申請者所属研究科正式名	DC→〇〇研究科 PD→〇〇学部			

<申請内容ファイル>作成にあたっての注意事項と記入ポイント

- 注意事項
 - 10ポイント以上の文字で記入すること
 - 日本語または英語で作成すること
 - 誤字脱字、通し番号の付け間違いはないか、必ず確認すること
 - 計画書の不備は、それだけで研究が重要でない、意欲がない等の評価に繋がりがかねないです！
 - 所定の様式を崩さないこと（頁や項目の追加、枠の大きさ変更、記入しない項目の省略等は不可）
 - PDF化した時にグレースケールで不鮮明にならないこと（特に図表や画像は注意）
 - 審査委員にはグレースケールの冊子で配布されます！
 - 申請内容ファイルのアップロード後、必ずPDFをダウンロードして内容を確認すること
- 記入ポイント
 - 指示書きをよく読み、指示書きで求められていることに応えるように書く
 - 審査員が「どこに何が書いてあるか」わかりやすいように書く
 - 読みやすさの工夫（文字の配置や強調、一行あけるなどスペースの活用）
 - わかりやすさの工夫（専門外の人でもわかる易しい言葉、言い回しの選択）
 - 時間に余裕をもって書き、先生や友人など第三者に読んでもらう

4.申請書について

(DC 申請内容ファイル)

2. 【研究計画】 適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

(1) 研究の位置づけ

特別研究員として取り組む研究の位置づけについて、当該分野の状況や課題等の背景、並びに本研究計画の着想に至った経緯も含めて記入してください。

おもに研究の背景について記す項目
(先行研究、学部・修士時代の研究など)

(1) 研究の位置づけ

① 当該分野の状況や課題等の背景

- ・本テーマの学術的背景を、先行研究（他の研究者または自身が行ってきた）を引用しながら記載
- ・課題等の背景は、どういった事が課題とされたのか、解明したい・解決したい点を明確にする

② 本研究計画の着想に至った経緯

- ・この研究計画を思いついた経緯
- ・なぜこの研究に取り組もうと思ったのか
- ・申請者のこれまでの研究経験に基づくものであればさらに良い
→ 自身の成果に基づく着想であれば、それだけでオリジナルとアピール！！

主な審査方針 I

- 自身の研究課題設定に至る背景が示されており、かつその着想が優れていること

DC 申請内容ファイルは3MB以内で！！

4.申請書について

【研究計画】（続き）適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、各事項の字数制限はありませんが、全体で2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

(2) 研究目的・内容等

- ① 特別研究員として取り組む研究計画における研究目的、研究方法、研究内容について記入してください。
 - ② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか、特別研究員奨励費の応募区分（下記（※）参照）に応じて、具体的に記入してください。
 - ③ 研究の特色・独創的な点（先行研究等との比較、本研究の完成時に予想されるインパクト、将来の見通し等）にも触れて記入してください。
 - ④ 研究計画が所属研究室としての研究活動の一部と位置づけられる場合は申請者が担当する部分を明らかにしてください。
 - ⑤ 研究計画の期間中に受入研究機関と異なる研究機関（外国の研究機関等を含む。）において研究に従事することも計画している場合は、具体的に記入してください。
- （※）特別研究員奨励費の研究期間が3年の場合の応募総額は（A区分）が240万円以下、（B区分）が240万円超450万円以下（DC1のみ）。2年の場合は（A区分）が160万円以下、（B区分）が160万円超300万円以下。1年の場合は（A区分）が80万円以下、（B区分）が80万円超160万円以下。（B区分については研究計画に必要の場合のみ記入）

自身で取り組む研究について記す項目
（特別研究員採用期間中（博士））

(2) 研究目的・内容等

①-1 研究目的

- ・ 冒頭に本研究の目的（何をどのようにしてどこまで明らかにするのか）を簡潔に記載

①-2 研究方法・研究内容

- ・ 前述の目的を達成するために、具体的に何をするのか。どんな方法・手順で行うのか。研究方法、手法名を挙げて記載する（定量法、定性法、〇〇法、等）。
- ・ 研究方法・手順をどのように遂行していくのか。

② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか

- ・ 表や図などを用いて、年度ごとの研究計画をわかりやすく。
- ・ 行うことだけでなく、その工程が全体の目的のどの進捗になるのかも明記する。
- ・ 海外での調査・ヒアリング、国際会議での発表などの予定があればアピール。

③-1 先行研究等と比較して、本研究の特色、着眼点、独創的な点

- ・ 先行研究と比べて、本研究のオリジナリティや今までにない切り口や着眼点は何か。
→ 先行研究で不足している点（なぜ不足しているのか）
明らかにっていない点（なぜ明らかになっていないのか）

③-2 国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ、意義

- ・ 国内外の関連する研究と比べて、本研究の位置づけと意義は何か。
→ 国内外の関連する研究はどのようなものがあって、何を明らかにしているのか。
本研究はどのようなものであって、関連研究と比べてどのような意義があるのか。

③-3 本研究が完成したとき予想されるインパクト及び将来の見通し

- ・ 本研究を達成することで、どのような学術的貢献や社会への還元を目指すのか。
さらに、将来的にどのような研究進展や波及効果が予想されるか。

④ 所属研究室の研究との関連において、申請者が担当する部分

- ・ 共同研究の場合、申請者の役割を明確に示す。（特に理系研究室で共同研究を行っている場合など）

⑤ 研究計画の期間中に異なった研究機関において研究に従事すること

- ・ 異なる研究機関での研究予定がある場合は、そこでの研究内容と本研究にもたらす効果を示す。

主な審査方針 I

- 研究の方法にオリジナリティがあり、自身の研究課題の今後の展望が示されていること

4.申請書について

3. 人権の保護及び法令等の遵守への対応

本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

本欄には、「2.研究計画」を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を記入してください。

例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、行動調査（個人履歴・映像を含む）、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、侵襲性を伴う研究、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となりますので手続の状況も具体的に記入してください。

なお、該当しない場合には、その旨記入してください。

学内、学外の規程や指針に則って研究を行っていること、個人情報 that 特定されないようにする具体的な方法が記載されていることが記載されていること、廃棄方法についても記載があると良い。なお、当該分野の学会の指針等も参照する。なお、該当しない場合は「本研究は〇〇なので該当しない」と明記すること。

記入方法の例示

本申請研究では、質問紙及びヒアリング調査を行う事から、個人情報については本学（〇〇学会）の指針に準ずる形で取り扱う。また被験者や実験協力者から測定した行動計測や個人情報などの記録情報は、セキュリティで保護された計算機の中に保存し、個人情報と隔離して、個人を特定できないようID化して取り扱う。さらに、最終的に数値化されるため個人が特定できない形となるが、計測データのネットワーク伝送の際には、暗号化や個人ID化を徹底し、取り扱いに十分に注意し、研究終了後は上記指針に則って速やかに廃棄する予定である。

なお、ヒアリングについては、特に個人的な体験について語ってもらうことから、被験者から要請があればいつでも取りやめる事が出来る事を冒頭に説明した上で行う。人を対象とした研究の倫理上の問題や安全性などに関しては、必要に応じて外部の有識者を含めて議論する事も検討する。

<主に以下の研究などが該当>

1. 個人情報（アンケートやヒアリング調査、人名・不動産情報等の記載のある台帳など）を扱う研究
2. フィールドワークを行う研究（国内外の文化遺産の調査等も含む）
3. 遺伝子組み換え実験、動物実験等を行う研究

該当しない場合は、「本研究は〇〇なので該当しない」と記入すること
空欄だと「不備」とみなされる場合があるので注意

4.申請書について

4. 【研究遂行力の自己分析】 各事項の字数制限はありませんが、全体で2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

本申請書記載の研究計画を含め、当該分野における(1)「研究に関する自身の強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、これまで携わった研究活動における経験などを踏まえ、具体的に記入してください。

(1) 研究に関する自身の強み

自己分析～自己アピール項目

記入方法の例示

『Aの〇〇に関する研究』

研究活動とその成果の概要 →研究手法や調査実績もアピール

自身の役割・能力などのアピール

記入のポイント① に示すスキルのうち、どれが対応するかを書き、能力を有していることをアピール

主要業績

[1] 中央太郎, 中央団子, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇: 尺度ツールを応用する〇〇評価に関する実証的実験, 日本××学会誌, Vol. 29, pp. 650-657, 2018. (査読有)

『Bの△△とAへの応用可能性に関する研究』

研究活動とその成果の概要 →研究手法や調査実績もアピール

自身の役割・能力などのアピール

記入のポイント② を参考に記入

主要業績

[2] T. Chuo, A Chuo :Evaluating the XXXX between criteria for equality within and outside one' s personal domain, Journal of Personality and Social Psychology, Vol. 26, pp. 120-130, 2016. (査読有) 他〇報.

記入のポイント②

記述の根拠となるこれまでの研究活動の成果物(論文等)も適宜示しながら強みを記入してください。成果物(論文等)を記入する場合は、それらを同定するに十分な情報を記入してください。

- 学術論文(査読の有無を明らかにすること。査読のある場合、採録決定済のものに限る。)
- 著者、題名、掲載誌名、巻号、pp 開始頁-最終頁、発行年を記載すること。
- 研究発表(口頭・ポスターの別、査読の有無を明らかにすること。)
- 著者、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載すること。(発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載してもよい。)

4.申請書について

(2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素

- 記入のポイント①に示してあるスキルのうち、(1)で触れなかったもの(=不足しているもの)について項目立てて記載し、そのスキルを修得するための方策等についても言及する

主な審査方針Ⅱ

- 学術の将来を担う優れた研究者となることが十分期待できること。

記入のポイント③

現在の指導教員が作成する「評価書」に、
「(1)「研究者としての強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、具体的に入力してください。」

という項目があります。

本項目に連動して記載する項目となりますので、指導教員への評価書依頼は、時間に余裕をもっておこなってください。

(作成した申請書類を指導教員に渡し、記載内容が連動するように依頼。)

4.申請書について

5. 【目指す研究者像等】 各事項の字数制限はありませんが、全体で1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可

日本学術振興会特別研究員制度は、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としています。この目的に鑑み、(1)「目指す研究者像」、(2)「目指す研究者像に向けて特別研究員の採用期間中に行う研究活動の位置づけ」を記入してください。

(1) 目指す研究者像 ※目指す研究者像に向けて身に付けるべき資質も含め記入してください。

意欲を表す項目

- ・ 無難な研究者像でなく、自分だからこそ示せる研究者像を！
- ・ 研究者を目指す際に目標にしている実在の研究者名を挙げてもよい。

(2) 上記の「目指す研究者像」に向けて、特別研究員の採用期間中に行う研究活動の位置づけ

- ・ 4（2）で記述した不足している点を身に着けるための活動等。
- ・ 4（1）の現状から、ここに記載した活動を通して目指す研究者像に近づけると客観的に分かってもらえるように！

主な審査方針Ⅱ

- 学術の将来を担う優れた研究者となることが十分期待できること。

5.チェックリスト

	チェック項目		チェック
1	受入研究機関	受入研究機関（博士課程在籍機関）は国内の大学か。	☐
2	申請資格	申請資格を満たしているか。PD・RPDが学位取得(見込含)しているか。DCは採用時点で博士課程に在学し、申請資格相当の年次に進学しているか。	☐
3	専門分野	申請書情報⑤専門分野は、正しく漢字等で入力されているか。（7字以内）	☐
4	学歴と博士の状況	申請書情報の⑧学歴、⑨博士の状況が正確に記載されているか。卒業(予定)・入学(見込)の年月日に矛盾はないか。 研究科名、専攻名は正確に入力されているか。	☐
5	現在の研究指導者採用後の受入研究者	申請書情報の⑫現在の研究指導者（受入研究者）⑬採用後の受入研究者について、所属機関、部局、職名等は正しいか。学籍上の指導教員か。	☐
6	採用後の申請者所属研究科正式名	申請者自身の所属部局（学籍上の部局）は正しいか DC1・DC2 → ○○研究科 PD・RPD → ○○学部	☐
7	様式改変	令和6年度(2024年度)採用版の書類で作成しているか。 様式を経変（枠の大きさ変更、頁追加、ヘッダー外れ）をしていないか。	☐
8	文字化け等	文字化けや図表のレイアウト、項目番号の飛ばし・重複はないか。	☐
9	鮮明さ	印刷した時に、グレースケールで不鮮明な箇所はないか。 （特に図表内の文字、記号）	☐

6.その他

【Web サイト】

(1) 日本学術振興会

<特別研究員のページ>

<https://www.jsps.go.jp/j-pd/>

<令和6年度(2024年度)採用分特別研究員募集に関する説明資料>

https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_setsumeikai.html

<募集要項・申請書作成要領・内容ファイル入手>

https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sin.html

<電子申請システム 申請者ログインページ>

<https://www.yousei.jsps.go.jp/yousei1/shinsei/index.html>

(2) 中央大学 HP

2024年度採用分 日本学術振興会特別研究員(DC・PD・RPD)の募集について
(ID・パスワード発行申請書はこちらから)

<https://www.chuo-u.ac.jp/research/support/news/2023/02/64847/>

【学内のお問合せ先】

- ・学事部研究助成課(多摩キャンパス1号館4階)
→文系大学院(法学研究科を除く)・PD申請希望の方
042kaken-grp@g.chuo-u.ac.jp
Tel 042-674-2159
- ・研究支援室(後楽園キャンパス3号館10階)
→理系大学院・法学研究科・国際情報研究科・
法務研究科・戦略経営研究科・PD申請希望の方
kaken-shinsei-grp@g.chuo-u.ac.jp
Tel 03-3817-7423